

## 『孔子通紀』解説

前川 捷三

<資料> 書名は「こうしつうき」と読む。八巻、二冊。本の大きさは縦約27糎、横約19糎。表紙左上方の題簽に『孔子通紀 乾』、『孔子通紀 坤』と墨書する。第一冊は「讀孔子通紀」、「孔子通紀序」、「孔子通紀總解」、「孔子通紀凡例」、卷之一が計二十丁、卷之二が二十六丁、卷之三が十四丁、卷之四が二十五丁。第二冊は卷之五が四丁、卷之六が四十七丁、卷之七が四十七丁、卷之八が九丁。綾装、袋綴じ。古活字本である。なお、蔵書印がある。一は「栢樹藏書」(栢は柏の別体)と読むのではないだろうか。他は「鷹嶽館圖書記」とある。また、『乾』の裏表紙には「于時明治五壬申年十二月三日年號改革明治六癸酉一月十五日求之」と三行に、「佐藤 晴」(第三字不明)と一行に墨書する。

<著者> 卷之一の巻首に「潘府校著」とある。潘府の伝記は『明史』卷二百八十二に見える。彼の字は孔修、上虞(現浙江省の地名)の人。成化(年号。西暦1465 - 1487年)末の進士。憲宗(第八代皇帝)が崩じた時、孝宗(第九代)に短喪でなく三年の喪を行うべきことを上疏した。長楽知県となって民に「朱子家礼」を行わせた。南京兵部主事に遷り「軍民利病七事」を陳(の)べた。刑部に補せられ、内外の災変に「救時十要」を上(たてまつ)った。員外郎となり、広東提学副使を拝し「弭災三術」を上った。嘉靖改元(1522年)に太僕少卿となり、太常となって致仕した。南山(現浙江省の山名)に退居、布衣疏食し経伝を發明するをもって事とした。王守仁が講学した地とは百里と距らなかつたが、両者の学問には相違があつた。七十三才で没した(以上『明史』)。

本書の成立は卷之八に「辛酉」(弘治。西暦1501年)に「脱稿」、「癸亥」(1503年)に「苟完」と潘府自ら述べている。

<解説> 本書は先ず謝鐸「讀孔子通紀」、劉瑞「孔子通紀序」を収め、「孔子通紀總解」、「孔子通紀凡例」が記される。八巻の中、「前紀」一卷は先聖よりの道統と父叔梁紇に至る世系、「正紀」三巻は孔子誕生よりの出处言行、「後紀」四巻は歴代の孔子封号、孔門の弟子、後世諸儒の従祀された者、孔子以後の世系などについて、多数の書物の記事を参考互訂して述べている。

幾つかの目録を調査したが、『孔子通紀』の書名を見るのは、今の所わずかに『改訂内閣文庫漢籍分類目録』(昭和四十六年)のみである。それには

八巻、明潘府[慶長刊](古活)二冊

とあり、菅文庫目録に記すのと同じである。

本書には特異な点が見られる。巻首に「讀孔子通紀序」とある。「序」は衍字。その「孔子通紀序」の部分は紙を薄く削り、別の紙片を貼っている。その紙片は「孔子」と「通紀序」の別の二枚か

ら成る（共に活字）。

「孔子通紀序」、「孔子通紀總解」、「孔子通紀凡例」と記す部分も「孔子」一枚とそれ以下の文字一枚を貼っている。（「孔子通紀總解」は「時」字で終わっているが、誤りがある。また、最終行は薄く剥がれた跡がある。この部分にも紙片を貼り、それが剥がれたのであろうか）。「孔子通紀卷之一」から「孔子通紀卷之四」に至る部分と「孔子通紀卷之七」、「孔子通紀卷之八」の部分も同様。ただし、「孔子通紀卷之五」は巻首には紙片が剥がれた跡があり、巻末には「孔子」の紙片を残すのみ。「孔子通紀卷之六」は巻首には活字がそのまま印刷されているが、巻末には書名と巻数を示す文字が無い。ただ、最終行「之上也」の下に紙を薄く削り取った跡が見える。

上記のことは発行書肆が行ったものであろう。書名を「孔子通紀」でなく「通紀」とのみ刻したので「孔子」を補ったのであろうか。柱刻は「通記卷一」、「通記卷二」のように記している。ただし、巻一の十二丁、十六丁、十九丁は「通紀一卷」と誤刻、巻二の三丁は「通記總解二卷」、同巻の四丁は「通紀凡例卷二」と誤刻。六丁、七丁、八丁は「通紀二卷」と誤刻している。

修正が施されているのは書名、巻数のみではない。「孔子通紀總解」中に見える「賛化育」の「育」はもと「齊」字であったのを、上に「育」（活字）の紙片を貼る。

「孔子通紀凡例」の「六經四書」は紙を薄く削り、「六」と「經」と「四書」の三枚の紙を貼り、裏に薄くなったのを補う紙片を貼る。この例は巻二の十一丁オの「之門」にも見られる。

文字があるべきなのに空白になっている所がある。例えば巻之六の十二丁ウ「仲由……少孔子 歳」の空白には数字が入るべきである。巻二の七丁オの小字の空白には、『春秋左伝』の文であれば、「戮死可」と「美」が入るべきであろう。

この刊本は稀覯書であり、特異な点が多くある。なお研究を要するものと思われる。

（本学教育学部教授）